



第五卷 第五号

発行所 方城村公民館和  
編集所 方城村公民館和  
印刷所 有限会社日刷印  
小竹町 (旧西尾印刷有限会社)

◇原稿募集◇

- 一、論文随筆創作文芸評論何でも建設的なもの(取捨は編集部に一任)
- 二、詩歌俳句川柳一人二首二句
- 三、投稿締切 毎月五日
- 四、投稿先 方城村公民館

独立の春に思う

副館長 高津久雄

新聞に依れば、昨年九月サンフランシスコに於て、米英をはじめ四十八カ国の手で調印された。講和条約がトルーマン大統領の批准書名に依り四月二十八日に其の効力を発生することが報ぜられている。かくて日本は待望の独立を迎えるのだ。終戦後永い間、占領軍政下に置かれて、日本人自身の力と考えに依る政治と云うものが全々認められず一々マッカーサーの指揮を受けなければならなかったばかりでなく、民主主義の植付で不磨の大典を誇称した君主憲法が在民主権の憲法に改正されたり、男女同権の保障が戸主権と家を認めない改正民法の実現となったりした婦人の開放と参政権の附与、労働基準法の制定、農地開放の断行、六三制教育制度の実施、共同募金制度等々、目新しい制度が数多く実施された。然し之等の制度の総てが必ずし

も日本の実情に適したものでなかつたようだし、必ずしも日本人の欲した制度ばかりでもなかつたようだと云え、独立を機会に徒らに、過去のあり方に対し何にか反発的、破壊的態度に出ることも慎重を期さねばならぬと思う。まず此の際吾等は独立の喜びを持つと共に、静かに自己を反省してみることも必要であらう。

敗戦のもたらした最も大きい精神的打撃は何と云うても、日本人が日本人としての誇りを喪うたことであつた。自己を喪つた依頼心であり、場合に依つては不当に自己を卑下した精神であつた。米人の為すことは何事に拘らず、範とすべしと云う觀念であつた。婦人が真赤な口紅をつけて得々たる顔を、大人がチューインガムをかむことを以て文化人を氣取つて見たたり一寸理解に苦しむ仕事

の数々があつた。然し最近講和の時来るの聲と共に、日本人間に日本人意識が漸次強く取り戻されて来つゝあることは喜ぶべき現象の一つであると思われる。

日本の社会で最も著しい跛行的存在は婦人の地位の問題であつた。見方に依れば婦人は男性の従物視される程度のものにしか過ぎなかつた。法律の上に於ても婦人は妻となることに依つて無能力者の扱を受ることになり、社会的にも一個の人格者としての待遇を受けなかつたものである。女房賢うして牛を売り損うとか雌鳥が歌うとか、婦人は何処までも内助者としての立場に於てしか認められず、日本人の地位は誠に恵まれぬ不自然の存在であつたことは事実である。終戦後占領軍が第一に手を付けたのが婦人開放の問題であつた。憲法に於て男女両性の平等が規定され、次に民法の条文から妻の無能力規定が削除された。

昭和二十二年四月十日は日本の女性をはじめ、与えられた参政権を行使して選挙に投票した記念すべき婦人開放の第一であつたのだ。婦人の立場から否、日本の社会制度の上から見て、之は大変な改革であつた筈である。

然るに農村婦人の現実はどうであるか？相変らず子供を生むこと、炊事をする、洗濯をすること、家の掃除をすること、それと野良の仕事に終日追いまわされている。甚だしい家庭に於ては日常の小使錢すら一々主人に貰う始末で折角女学校や中学、高等学校で勉強した知識を利用しようとしてはいないばかりか、其の始末を忘れて、何等悔ゆる所もなく、現在では婦人雜誌はおろか、其の日の新聞でさえ読まぬ人になり切つてゐる婦人が見受けられるが、無自覚と云えば、余りにも無自覚と云わねばならぬ。斯くては婦人の開放

は名のみで婦人自身の向上の望み難きは勿論のこと、其の弊は子弟の教育上にも、大きくは日本の再建にも影響する所が大きいことに思いを致さねばなるまい。婦人の恵まれぬ立場に對するあきらめと新しい事を好まぬ封建の習性から、もう婦人自身の力でぬけ出る時機が来ているのではなからうか？

国民の教育水準を、国際水準に引上げる為には、六年の義務教育を、八年に延長すべきであると言ふのは、戦前に於ける教育制度の改革意見であつた。終戦後占領軍の示唆で、所謂六三制の義務教育が実施された。敗戦直後の経済界混乱の中に中学建設の大事業が進められた結果、校舎の不足、教材の不整備、教職員の不適格等、雑多な不都合が招来された校舎建設等の問題で町村長が責任辞職したものが全国で約一八〇人もあつたと云うからは並大抵の事業ではなかつたと云うことが首肯される訳だが、中学教育も漸く軌道に乗つて来た感がある。本村に於ても第一次の増築に際しては寄附金問題で紛議が重ねられ、第三次の増築では位地の問題で兎角の意見はあつたが、曲りなりにも中学整備のあゆみは、進められている現状である。第三次の増築が二十六年度に完了し、二十七年年度と運動場が実現すれば一應設置の問題は完備する訳である。此の上は内容の充実である。それには何よりも先ずよき教職員を得ることが必要であると思ふ。現在村部にしても、炭坑方面にしても、文化の問題が執り上げられ、個人の教養が論じられ、生活の改善が叫ばれる雰囲気醸生されつゝあるが、之は海外からの引揚者又は都会からの疎開者に依る知識人の転入に負う所が多いようだ。十年一日の習性に慣れて来た農村には確かに新味のある刺激を与えたこと、思われる。農村にも農村

人相應の文化と教養があつてよい筈である。麦の生育と、米の収穫高のみが農村人唯一の楽しみであつたのでは哀れである。旧慣を捨てた近代化された生産技術を以てする農事経営に依る収入の増加を考えたい。衣食住の面にも文化の香りを漂したいものである。人生を榮しむ上に於て年に一度や二度の家族旅行も望ましい。視野の狭い利己的な策謀と慾の権化となつた農奴のみにくい姿から一日も早く蠅脱したいものではあるが、之は何と云うても、教育の力で矯正して行く外に途はあるまい。

教育だ！教育だ！！教育こそ全村民が否全日本人の最大の関心事であり、其の総力を挙げて為すべき大事業であるべきだ。

方城村は方城村民の方城村である。日本は日本人の日本である。此の村をよくし、日本をよくすることは結局は村民であり、日本人である各自自身がかつと、真剣に考へべき問題ではあるまいか？

方城村少年團歌 試作

方城小学校長 森田 悟

一、  
露も晴れる福智の嶺に  
朝日の光さわやかに  
輝き初める少年の  
燃ゆる希望の方城村。

二、  
文化の里の創造に  
正義を誇る少年団  
使命も重く雄らかに  
吾等が行先には意義深し。

三、  
斜陽も落ちて夕空に  
またよく星も限りなく  
意見に花咲く自治会は  
明日の社会の建設譚。

# 第一回運営審議會

前考で発表の通り二十七年公民館予算が決定したので、これが具体的実行案討議のため四月十八日運営審議委員会を開催慎重審議の様な具体案を決定した。一、兼ての地域館員の要望に答え分館に関する規則の一部を改正し方城炭坑分館区域を各区域として六分館に改組し畑分館から広谷分館を独立しこれより方城分館は二十九分館として運営することになった。二、定期講座の設置従来の大衆講座の成果を勘案し各分館単位に毎月一回以上分館の緊急課題を取上げて開設するが日程講師については本館と緊密な連絡のもとに実施する。

三、青年学級の開設  
新制中学卒業者から十八才迄の勤労青年を対象として年間二百時間以上開設する。  
四、十六粒映写機を購入し各分館に於て視覚教育の促進

## 青年学級開設世論調査

昭和二十七年年度から公民館で青年学級を開設する構想のもとに世論調査を行った結果は次の通りであった。

一、調査の対象 方城中学校三年生で進学しない男四七名、女三四名、計八一名。  
二、場所 方城中学校  
三、期日 三月十三日  
四、方法 無記名で各項目毎に○印を付けさせ生徒相互間の話を禁止し本人独自の意志を卒直に記入し得る様う特別の考慮を払った。  
五、調査担当者 荒木主事、葛原書記

### ①青年学級開設の希望

	農業		炭坑		計		総計
	男	女	男	女	男	女	
イ)希望する	16	6	9	7	35	13	48
ロ)希望しない	1	6	7	12	8	18	26
ハ)どうでもよい	1	1	3	2	4	3	7
計	18	13	29	21	47	34	81

### ②開設希望の理由

	農業		炭坑		計		総計
	男	女	男	女	男	女	
イ)上級学校へ行くため	2	1	3	1	5	2	7
ロ)社会人として人格情操を高めるため	14	4	14	6	28	10	38
ハ)その他			1	2	2	1	3
計	16	6	19	7	35	13	48

### ④開設日程の希望について

	農業		炭坑		計		総計
	男	女	男	女	男	女	
イ)全日制	2	1	2	2	4	3	7
ロ)週一回日曜日	7	5	6	5	13	10	23
ハ)週一回土曜日	3	0	2	0	5	0	5
ニ)週二回	4	0	9	0	13	0	13
計	16	6	19	7	35	13	48

### ⑤教授時間について

	農業		炭坑		計		総計
	男	女	男	女	男	女	
イ)午前9時~12時	6	1	7	1	13	2	15
ロ)午後1時~4時	1	0	2	1	3	1	4
ハ)午後6時~9時	8	0	8	0	16	0	16
ニ)午前9時~午後4時	1	5	2	5	3	10	13
計	16	6	19	7	35	13	48

### ③開設を希望しない理由

	農業		炭坑		計		総計
	男	女	男	女	男	女	
イ)面倒だから	0	1	0	0	0	1	1
ロ)家業の手伝い追われるため	0	2	2	8	2	10	12
ハ)今更勉強しても追付んので	0	0	0	0	0	0	0
ニ)家庭で独学する	0	2	0	1	0	3	3
ホ)自由に遊びたい	0	1	0	0	0	1	1
ヘ)その他	1	0	5	3	6	3	9
計	1	6	7	12	8	18	26

五、図書館の運営に就いて  
(1)現在の蔵書を分類別に検討し二十七年年度予算を次の様に配分図書を購入し計画を樹立した  
総記三、哲学三、歴史科学五、社会科学一〇、自然科学一〇、工学二、産業三〇、芸術二、語学二、文学一〇、新聞雑誌其他二三%の範囲内で優良図書を選定する。  
(2)巡回文庫  
本村の地理的条件を考慮し十冊乃至二十冊程度の文庫を作製。毎月一回受入準備の整った分館から順次巡回閲覧に供する。  
以上の大綱が決定したので更に四月二十四日分館長会議を開いて分館活動の具体案を討議し分館の旺盛な推進力と呼應して本館活動を展開し文化方城建設に邁進することになった。

### ⑥教授科目について (延数)

	農業		炭坑		計		総計
	男	女	男	女	男	女	
イ)理科	0	1	0	2	0	3	3
ロ)裁縫	0	6	0	5	0	11	11
ハ)生活	0	1	0	2	0	3	3
ニ)政治	10	0	5	0	15	0	15
ホ)経済	5	1	2	0	7	1	8
ヘ)社会	10	0	12	0	22	0	22
ト)職能技術	13	0	8	0	21	0	21
チ)保健衛生	4	1	2	1	6	2	8
リ)その他	1	0	1	0	2	0	2
計	39	10	30	10	69	20	89

### ⑦開設場所の希望

	農業		炭坑		計		総計
	男	女	男	女	男	女	
イ)役員	6	2	6	3	12	5	17
ロ)伊方、弁城、炭坑各部	6	0	12	2	18	2	20
ハ)各部落	4	4	1	2	5	6	11
計	16	6	19	7	35	13	48

## 納税強調月間

### 財務課

の通り納税強調月間を設けました。御協力願います。  
一、期間 四月二十五日より五月二十四日まで

皆さん、税金の納付は済みましたか。  
昭和二十六年年度の納税率は四月二十日現在約九七%に達しました。皆さんの御協力に対し厚く御礼申し上げます。  
(4)納税旗の掲示 (以上)

- 一、実施要領
- (1)公民館等の集会用趣旨徹底
- (2)児童、生徒、ポスター募集
- (3)納税収納袋各戸に配付
- (4)納税旗の掲示

## ブックルーム

友の會 新登録者	破読書冊数		閲覧者数	
	総計	記	官公吏	炭坑農業
学生	7	7	48	31
生徒		9		32
一般	8	3		5
計	15	22		29
		9		28
		1		9
		15		25
		2		
		0		
		248		
		計		計
		316		207

### ◎ブックガイド

四月受入れ新刊書  
著者 植野信之 子環 太陽は又昇る  
著者 林武雄 子環 又昇る  
著者 田村雄一 子環 又昇る  
著者 浅田雄一 子環 又昇る  
著者 高橋武雄 子環 又昇る  
著者 平出順一 子環 又昇る  
著者 平見順一 子環 又昇る  
著者 凡社 子環 又昇る  
著者 西日本新聞社 子環 又昇る  
著者 鈴木朝三 子環 又昇る  
著者 小泉雄三 子環 又昇る  
著者 能村朝三 子環 又昇る  
著者 中野朝三 子環 又昇る  
著者 末草朝三 子環 又昇る  
著者 末川朝三 子環 又昇る  
著者 六六法隊 子環 又昇る  
著者 全柳隊 子環 又昇る  
著者 全柳隊 子環 又昇る  
著者 全柳隊 子環 又昇る

### 山上に大気を吸う

高津生

四月二十三日、此の日は空は薄曇りで、肌寒い日であった。弁城区常務中山英雄氏の発起で凡俗の平地で日常の諸行事に追われつゞけて居る者に、視界無碍の超俗的山上から方城村の現状を眺め、目つ将来を考えて見る事も決して徒事はあるまいと云う事で一日の清遊を兼ねた弁城焼立山への登山が行われた。

参加者の顔ぶれは井上地方事務所長、大坪林務課長、高津助役、仲島総務課長、荒木公民館主事、山本御業主任、永野村会議員、小川中学校長、中村弁城校長、弁城区中山常務、永末副常務、弁城区各連絡会長等、一行十有六名であった。上弁城公民館分館に集合、十時出発、植林後三十年を経たと云われる奥ヶ畑区有杉林の樹間を縫いつゝ三、三、五、五地元有志の植林事情に対する説明を聞きながら一行は元氣に坂道をよじ登って行く、山上に一行の顔が揃ったのが午後一時半。

中山常務は先ず本日此の催に対し井上地方事務所長並に大坪林務課長が公務多端の折柄にも拘らず特に参加して頂いた好意を感謝し、次で現在盛んに採掘されつゝある方城炭坑の地下資源は有限であるが故に、掘る事により年々其の寿命は短縮して行く、今後永く四十年も期待し得れば幸であるが、炭坑終息後の方城村を考えると誠に憂慮に堪えぬものがある。方城は幸にも二千町歩に亘る牧草山野を有している。

此の植林こそ方城村民が百年の計として真剣に考うべき問題ではないかと思ふ。之に附随する林道の開発、更には治山の問題に關連する治水並に水源の涵養ダムの設置問題、学校児童の山に対する関心の喚起等、之等の問題に対し此の山上から方城を俯瞰する大きい気持ちで考えて頂くことが出来れば幸いであると云うのが趣旨で他意はありませんと述べた。

本年三月県公民館として此の地一帯に植林されたばかりの檜が漸く活潑の色を見せ成育した数年後の林相を誰の頭にも一様に描かせたようだ。持参の弁当で空腹を満したが、山上に食う弁当の味は又格別であった。明日の方城をも考えない人の多い世俗の方城を眼下に広く、はればれとした山上に清純の大気を胸一杯に吸い所謂高邁の氣持で方城村の将来を語り合う機会を持った事は近頃の快事であった。



地方自治制度は私達社会の為にあるのであって制度の為に私達があるのではない事は論を俟たない所であらう。地方自治の理念や制度は総て住民一人々々の生活に生きてこなければならぬもので言代えれば生活そのものでなければならぬ。

斯様な私達の生活そのものたる地方自治の沿革をさぐって見ると市制町村制の制定以来約六十年、この六十年の間に著しく充実整備されてきたのである。例えば戸籍は整備され辺りすうの村々迄学校が建ち都市市にはあらゆる文化、厚生施設が設けられて国力進展の原動力となった。

### 地方自治と生活

葛原忠彦

現在自治制度は益々完備され、法解釈はいよ／＼精緻を極め、各種の先例、実例は集積され、地方財政も一應量的には膨張したが私達の日常生活にも／＼とも切実な要求の多くは地方国体の自治活動によって充足されず地方自治は私達の生活から次第に離れた存在と化し関心も薄らぎ興味も減退するに至った事が指摘される。

例えば税金はとられるものと考えられたり、監視や監督がなければ醜い争があつてはならない様では如何に美しい地方自治理念も、如何に整備された制度もしょせん笑を結ばぬ花であると言う外はないだらう。

斯の様な状態で放置して良いか、私達は根本的な点に目を向けなければならぬ。その第一として地方自治に対する関心の度合はどうかを見なければならぬ。

地方自治がうまく運営されるかどうかは住民が地方自治に対して関心を持っているかどうかによつて著しく左右される。住民が無関心であれば地方自治は住民の生活から遊離し、自治に対する批判の欠如は、いよいよ地方自治の腐敗を招くことになり、封建社会に於ける中央集権政治に逆戻りする恐れが大である。こうなれば「住民による住民のための政治」と言う地方自治本来の精神は没却され、選挙の時にのみ有権者の甘心を買えばよいと言う様な事になり、真に人格高潔な地方自治のた

めに尽してくる様な人物は影をひそめる結果を招く恐れなしとしない。次に責任の自覚である。

特に現在の様に議員と首長は住民の直接選挙によつて選ばれ地方自治に対する国家の後見の監督が殆んど撤廃されるに至り地方自治の善い結果も悪い結果もあけて住民自身が刈り取らなければならぬ時に於ては住民の一手一投足は極めて重い責任を負わされていると言う事が出来よう。例えば選挙に於ける一票は地方自治の成否をかけるものと言ふべく深い思慮と毅然たる態度と精神を以て行使しなければならぬものであると同時に投票が終つた後に於ても不断に地方自治の成行を見つめて住民の意図する所から離れない様に絶えず気を配っていないければならない。

第三に公共的精神の涵養であるが自分の意見のみを人におしつけ人の意見を虚心たんか

にき、意見の違う他人とも公共のために協同出来ると言う寛大な精神が欠けていては社会的制度としての地方自治はうまくゆくものではない。己も生活し他にも生活せしめると言う公共的精神の涵養が重要ではないかと思ふ。

第四が先きに述べた公共的精神の涵養と関連性のある教養の向上と言ふ事であるが、これは地方自治に対する責任を果し更に地方自治を監視し、これに協同するにはまず地方自治に対して或る程度の智識と理解とを以て居なければならぬと思ふのである。

それがためにはその沿革趨勢を見究め、これを批判し改善し自らその人格識見を練磨する様に努めたならばやがて人間を造り人格を陶冶する事になり生活と地方自治が一体不離なるであらう。



自由詩

「人生表裏」

光井 数雄

人だ、ハイヤーだ、荷車だ。
バスに、ジープに、花車。
織りなす人の行き交いに
コンクリートの長橋は
朝、昼、夜と休みなく
つとめを果すにぎやかさ。
だが其の橋の裏側で
蝙蝠喜しに似通いて
夜風、川風、人影を
むしるで困い、細々と
漸く生活をつゞけ行く
知るや橋下人生の
今日も淋しい明け暮れを。
表通りの繁花街。
舗装道路に、美しく
商品ならば、華やかに、
きらびやかなるショウウィンドを
楽しくのぞくアベックや
ニュースマイルが自慢げに
切った札ビラ誇り顔。
だがその通りの反面に
日の目もせまい細路地を
その日も足らぬ食べものに
子にせがれて曇り顔
思案に余る裏町の
知るや悲しい人生を。
ネオンの灯り美しく
都会の暮し、はなやかに
見ゆれどすべて、かくのごと。

ありと見る目はあやまてり、
留置場、拘留所の鉄窓に、
犯した自己の贖罪の
冷い日々を、幾日と
重ねるわびしい人もあり
生活に追われて、心なく
犯した者や、或は又
虚栄の夢に踊り出し
心のほそを締め忘れ
人に与えし罪の数
わびしく胸に一人泣く
知るや悔悟の人あるを。
犯した過去は詮もなし
及ばざりしは止むを得ず
晴れて日輪仰ぐとき
期せ確固の信念で
再び重ねることなきを。
長い浮世に、短い人世
生きる命の尊さは
一人静かに顧みて
知るや悔なき反省の
精神行為にあることを。

方城ホトトギス會白抄

ひとしきり火山灰降る如く山焼くる
又も来る裏英彦風雪つものり
満天の星ぬれ時雨雲晴れし
まなじりを裂く大寒も恙なく
輻灯に御守りしかと初入坑
左義長のほむらにゆるく伽藍かな
なみ／＼とインクつぎ足し事務始
更けゆくも礮山の寒灯動かざる
汗とばし火花をとばし穿孔す
かじかめる手をさしのべて路傍の火

京恋しわけて時雨のこの頃は
金襴の空朝もすの鳴き渡り
どことなく音のしており鶯啼
秋晴や島に一つの井戸のぞく
病人に叱られながら秋刀魚焼く
寒燈を提げゆらくと影運ぶ
北風や温泉突槽の庭鳴り
水遊びして叱られていたのし
沈丁花診察の窓あけしまつ
かわせみや子ぶなくわえて亭の上
ひさし
千鶴子
芝山
秋郊
子晃
鳴海
天留翁
逝童
小鈴

五月の農事メモ

◇苗代 管理
イ、ヒエ抜きヒエは一般
に稲の苗より早く発芽し伸
長も早いので、苗代の初期
にヒエ抜を行うこと。
ロ、芽干し 芽が地上に上
る迄は、暖い日中は溝だけ
に水を入れ芽干しを行う。
ハ、灌水 深水和すれば苗
が徒長し不良苗となるので
灌水にあたりては常に浅水
とすること。
ニ、焼土、焼穀殻の撒布
芽が一―二寸の頃、焼土又
は焼穀殻を坪当り、二―三
◇菜種
アブラ虫の防除
菜種の成熟期に日照りが続
くとアブラムシの発生が多
いのでBHCの粉剤を反当
り三疋程度撒布する。
◇苜蓿、苗床
イ、土入れ 苗床でイモの
背中に見えるものをよく見
受けるが、これでは苗の成
育がよくないのでイモの背
の上の一―一寸五分位土を
入れ、芽の基部よりの発根
を促すこと。
ロ、施肥 苗を作るには特
に肥料を多くやらなければ
ならない。肥料としては下
肥を三倍位に薄めて、五―
七日毎に施用する。
本圃
イ、植付期 五月二十日
(地温二十度以上)以降で
あれば、苗の出来次第早目
に植付を行う。
ロ、肥料 毎年イモを作り
やせている畑では、肥料を
は間土を置いて植付けをな
すこと。
◇蔬菜
イ、定植 四月の下旬より
得られない。堆肥を鋤込み
とし畦作りの際、硫酸一、
過リンサン一、硫酸加里一
の割合に配合して施用
する。
ロ、肥料 トマト・ナス・
胡瓜等の果菜類の定植に於
ける施肥は次の通り。
反当り、硫酸五貫一八貫、
過リンサン八貫、塩化加里
二―三貫を配合して、耕起
後整地の際畦上に施用する
植付け後灌水の際、下肥を
六・七に薄めて施用する。
植穴に下肥を施用するとき
は間土を置いて植付けをな
すこと。



◇編集子は毎号幾分なりとも新鮮味
に漂う文化の香り豊かなものに育て
たいと努めています。が編集陣の知能
技術の貧困は覆う可くもなく、また
こんなものになって申訳ありません
お許しを乞う。
◇毎号投稿者が一定して来ました。
感覚の新しい新人の御投稿と御支援
を特にお願い致します。
◇図書館毎月の新刊書の入荷はブッ
クガイドでお知らせしていますから
精々御利用下さい。